

次年度（令和８年度）に向けた改善方策

重点目標：「はじめに子どもありき」を基盤とした「みんなに居場所（時間・空間・仲間）がある楽しい学校」を実現する。

重点目標 1	(1) 重点目標	時間：子どもが自ら育つ学校づくりを推進する。
	(2) 数値による指標	「意欲的に授業に取り組んでいる」と答える児童を80%以上にする。
	(3) 改善方策 ※学校の自己評価や 学校関係者評価等の 視点も含む	<ul style="list-style-type: none"> ・「協働的な学び」（生活・総合的な学習の時間でのやりたいことが実現できる体験）を充実させる。 ・「個別最適な学び」（単元内自由進度学習）を各学年に応じて充実させる。 ・若手教諭を中心とした授業研修部による授業の質の向上に努める。
重点目標 2	(1) 重点目標	空間：一人ひとりが安心して過ごせる学校づくりを推進する。
	(2) 数値による指標	「学校には、ほっとできる場所や時間がある」と答える児童を90%以上にする。
	(3) 改善方策 ※学校の自己評価や 学校関係者評価等の 視点も含む	<ul style="list-style-type: none"> ・教科担任制や交換授業を行い、多角的に児童を理解しながら一人ひとりの個性が生きる教育を展開する。 ・自分のペース、進度に合った単元内自由進度学習を進め、「個別最適な学び」を充実させる。 ・教室内の居場所の工夫、ほっとルーム等の環境整備を行う。 ・担任、特別支援教室担当、支援員等によるケース会議の設定と充実を行う。
重点目標 3	(1) 重点目標	仲間：多様性を尊重しながら共に学び、共に育つ教育を推進する。
	(2) 数値による指標	学校には、自分自身の活躍の場がある」と答える児童を80%以上にする。
	(3) 改善方策 ※学校の自己評価や 学校関係者評価等の 視点も含む	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動や学級活動の充実、計画段階からの行事等への児童の主体的な関わり、不登校の未然防止に組織的に取り組みを行う。 ・特別支援学級と通常学級の交流をすすめ、共生社会の実現に向けて生きる力を育てる。（インクルーシブ教育） ・中学年以上で教科担任制を進め、多くの教師の目で多角的に児童を見守る。